



伊手の農村と農業を守る

農村RMOの軌跡(2022～2024)

1 伊手地区の概要

伊手^{いて}は、岩手県奥州市の東部に位置する自然豊かな中山間地域です。広大な5,000haの土地のうち、67%を山林が占めていて、米や和牛、りんごなどの農業を主産業としています。約1,300人・600世帯(2025年3月現在)が暮らし、高齢化率は約50%を超えています。

伊手小学校が2023年3月に閉校することが決まり、地域に変化が訪れました。危機感を抱いた住民たちは、地区のコミュニティ計画策定ワークショップをきっかけに「伊手を元気に!」と立ち上がり、地域の未来を見据えた取り組みが本格的に始まりました。



2 農村RMO事業を活用して

2022年2月に策定した伊手地区コミュニティ計画において優先度が高く、既存の部会で取り組むことが難しいプロジェクトを実行するために、農村RMOモデル形成支援事業を活用することとしました。この事業では「地域資源活用」「農用地保全」「生活支援」の3つの活動すべてを実施することとされています。伊手では、小学校の跡地活用や鳥獣被害対策、自家用有償運送などに取り組みました。

地域資源活用

旧伊手小学校の利活用
湧水を活用したブランド米づくり

農用地保全

遊休農地活用
鳥獣被害対策

生活支援

自家用有償運送
有償ボランティアの仕組みづくり



伊手小学校



小学校活用イベント



鳥獣力メラ設置



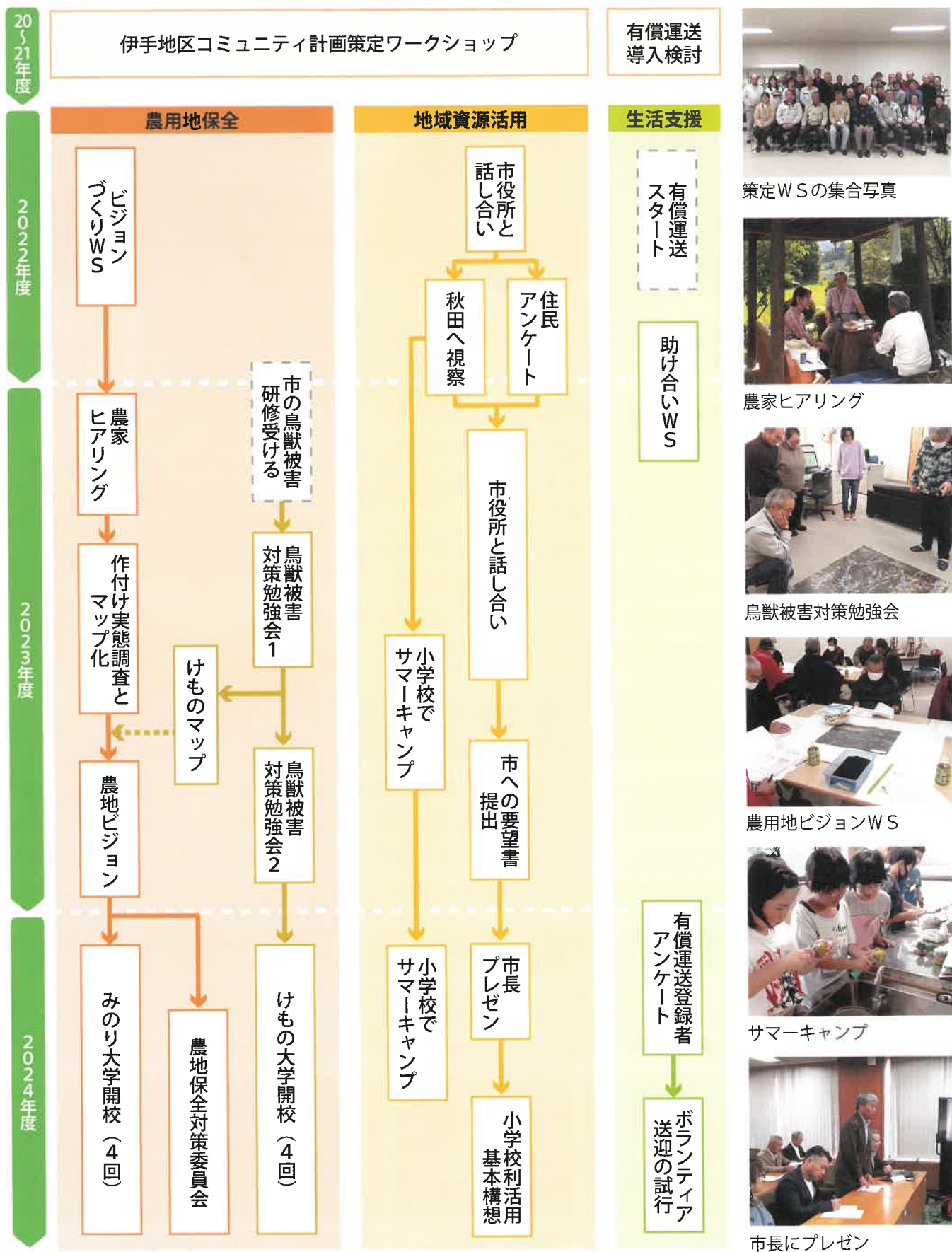
未利用果樹の利活用



通院支援

3

2022年度からは農村RMO形成推進事業を活用して3つの分野で活動を進め、様々な活動へと広がっています。

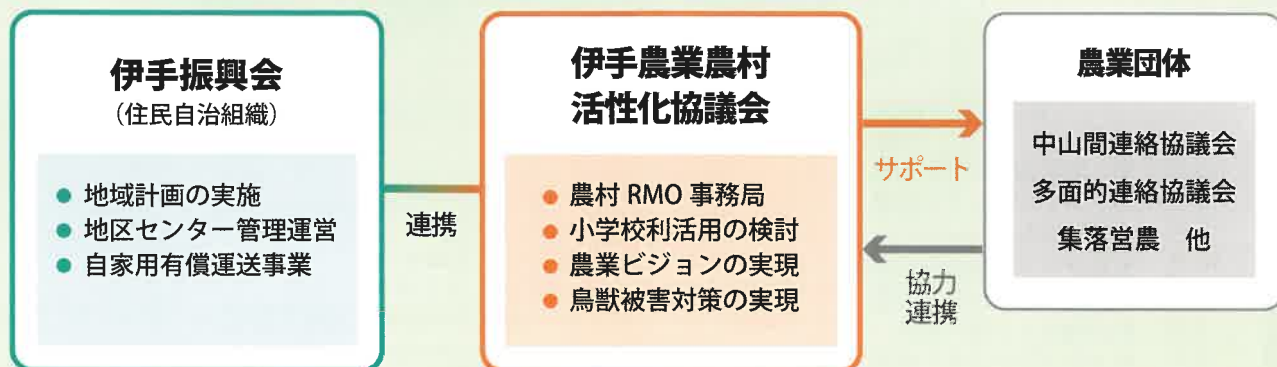


4 組織と体制

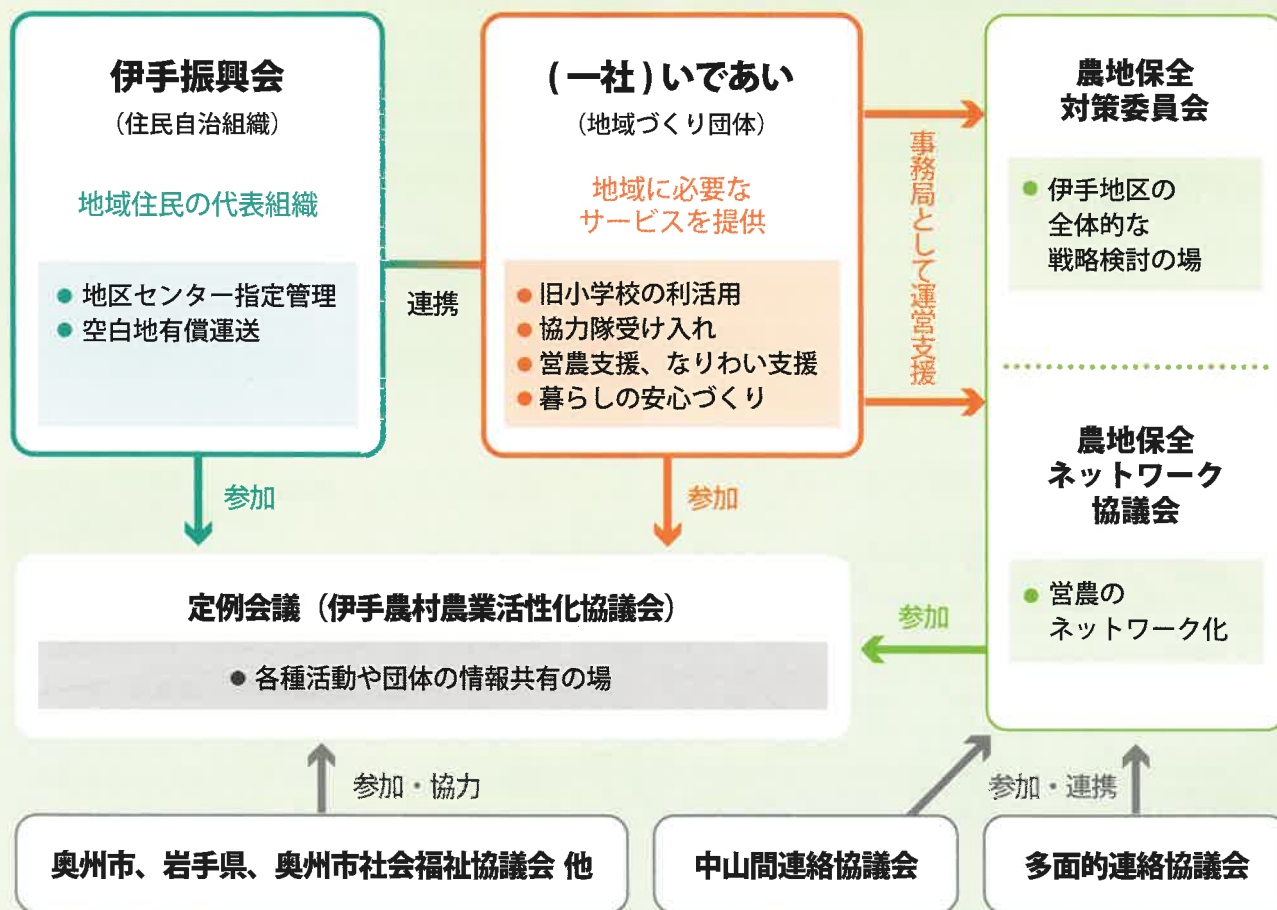
農村RMO形成推進事業を進めるために「伊手農村農業活性化協議会」を立ち上げ、伊手振興会と連携しながら活動を展開しました。2025年2月10日に、自立自走できる運営を目指して「一般社団法人いであい」を立ち上げました。伊手振興会と両輪となって伊手の未来を作る体制ができあがりました。



2022～2024年度の体制図



2025年度からの体制図



5 地域資源活用

01 伊手小学校の活用と拠点化

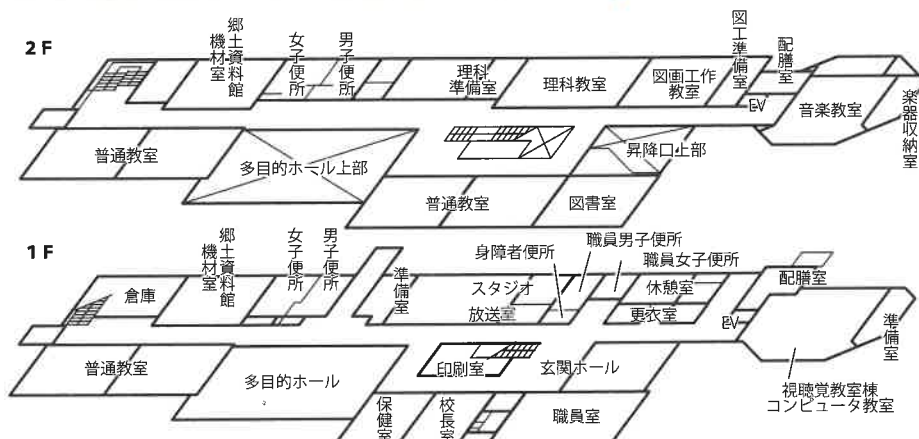
2023年3月に閉校を迎えた伊手小学校の活用を目指して、市との対話や住民アンケート、勉強会、先進地の視察などを経て小学校活用アイデア図を作りました。カフェや交流スペース、コワーキングスペース、体験型宿泊施設、子どもたちの学び・遊びの場など、地域の未来を見据えた多様なアイデアが盛り込まれています。

また、小学校を利用したキャンプイベントや、放棄食材を活用したカレー作りイベントなども実施し、地域の新たな交流を作り出しています。



伊手の取り組み		市との交渉・連携		
2022年度	6月 第1回プロジェクト会議	9月 市との意見交換スタート	①BABAME BASE (五城目町 旧馬場目小) ②わくばにかほ (にかほ市象潟 旧上浜小) ③雄勝スポーツセンター (湯沢市旧雄勝町 旧秋ノ宮小)	
	9月 第2回プロジェクト会議			
	10月 全戸アンケート			
	10月 有識者による勉強会の開催			
	1月 第3回プロジェクト会議			
2023年度	1月 秋田県内3か所へ視察	2月 市へ提言	小学校活用案と協議継続依頼	
	2月 第4回プロジェクト会議			
	3月 金子氏が伊手に来る			
	3月 伊手小学校閉校			
2024年度	7月 第1回サマーキャンプ	5月 市へ要望書提出	5月 現地区センターが伊手小に移転決定	
	9月 小学校活用イメージマップWS	5月 現地区センターが伊手小に移転決定		
	3月 市への要望書提出	10月 伊手小利活用基本構想を市へ提出		小さな拠点づくりモデル地区指定
		3月 小さな拠点づくりモデル地区指定		
25年度	7月 第2回サマーキャンプ	5月 小さな拠点づくりモデル事業実施協定締結	6月 伊手小改修工事設計業務委託者決定	
	10月 伊手小学校活用基本構想	6月 伊手小学校施設整備設計指針vol.1を市に提出		
	10月 市長プレゼン	7月 設計業者との打ち合わせスタート		
	11月 伊手婦人咖喱祭			
26年度	4月 小学校供用開始 (予定)	6月 改修工事開始 (予定)		

伊手小学校時代の平面図とキーパーソン



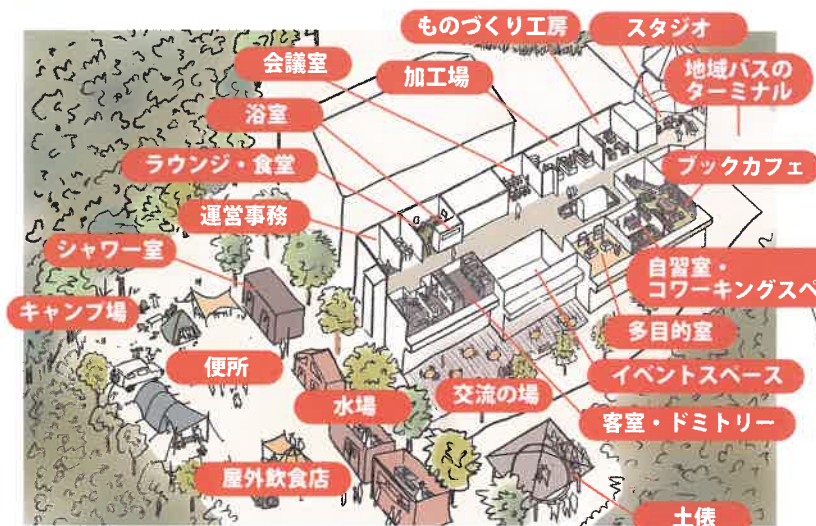
株式会社
ロンド

金子
晃輝氏



大学時代に起業後、(株)ジェイアール東日本企画で秋田県にかほ市の廃校活用や地域資源活用ビジネスプランコンテストを企画運営。映像プロモーションやインバウンド事業も統括。2021年一般社団法人ロンドを設立し、インキュベーション施設「わくばにかほ」等の運営も行う。

02 旧伊手小学校利活用「基本構想」



ワークショップや住民アンケートなどを行い、旧伊手小学校利活用「基本構想」を作成しました。全戸に配布するとともに市にも提出しました。



03 サマーキャンプ 2024～



2024年度から、旧校舎で小学生対象のサマーキャンプを毎年開催。体育館や校庭での遊び、地域の高齢者を先生に竹灯籠づくり、地域の特産品開発と絡めたメンマづくりなど内容は盛りだくさん。2年目からは中高生のボランティアを含めたスタッフが一緒に運営するようになりました。

04 伊手婦人咖喱祭 2024.11



伊手の中心にある商店街を会場に、賑わいの復活とフードロス削減、鳥獣への餌化防止を目的とした『伊手婦人咖喱祭』も開催。カレー等のふるまいやキッチンカー、出店などが並び、幅広い年齢層の方々約300人が訪れる活気あふれるイベントとなりました。

奥州市小さな拠点づくりモデル事業

旧伊手小学校の活用に向けた活動が評価され、2024年3月に奥州市の小さな拠点づくりモデル事業*に選定されました。奥州市も積極的に支援協力し、伊手小学校の拠点化が進んでいます。2026年4月には伊手地区センターの旧伊手小学校への移転も含め、本格稼働予定です。

奥州市の小さな拠点づくりプロジェクトステップ

① 地域住民による
「地域デザイン」の
策定

② 地域住民主体の
地域運営組織の
形成

③ 生活サービスの
維持確保

④ 仕事・収入の確保

*地域住民が主体となり、市や事業者と連携しながら、地域資源を活かして持続可能な生活圏を維持する仕組みをつくる取り組み。

6 農村RMO事業II 農地保全



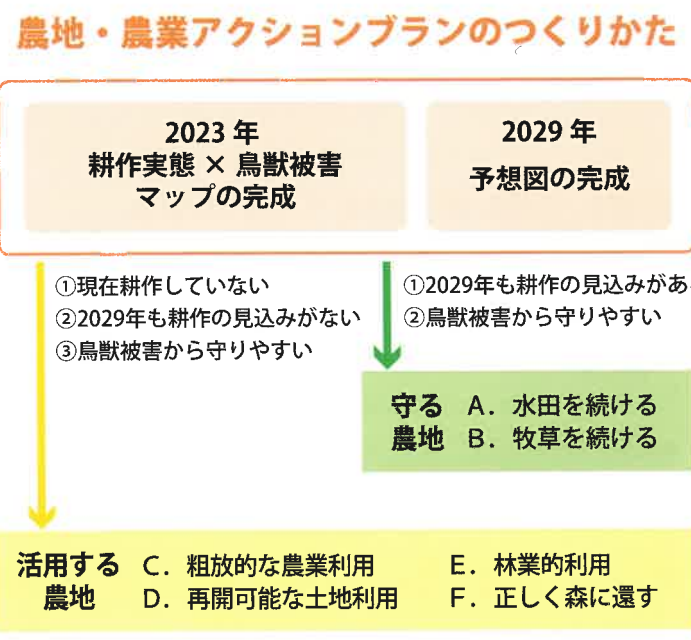
01 ビジョンの作成と実現

現在のすべての農地は守り切れない。中山間直接支払組織の代表らが集まり、「守る農地」と「守り切れない農地」の線引きを行い、守る農地については「守り方」を、守り切れない農地については「活用の仕方」を話し合いビジョンとして取りまとめました。そして、地区内外から有識者を招いて学ぶ場を作るとともに積極的に先進事例を見に行きました。2024年10月には地区内の農業の担い手らによる「農地保全対策委員会」が立ち上がり、本格的に農地の集積・集約や活用の実現を目指すことになりました。

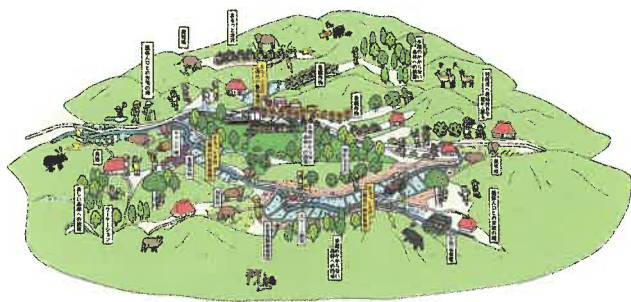
	農村農業ビジョン作成	みのり大学	ビジョンの実現に向けて
2022年度	1月 第1回農用地WS 3月 第2回農用地WS		
2023年度	6月 農家ヒアリング 8月 作付実態調査 11月 第3回農用地WS 2月 第4回農用地WS	 作付実態と鳥獣被害のマップ化	 委員会の設置
2024年度	6月 第5回農用地WS 6月 農地ビジョン完成 9月 人農地プラン地域計画策定 先進地視察	8月 みのり大学開校 9月 第2回みのり大学 11月 第3回みのり大学 12月 第4回みのり大学 3月 ピーカンナッツ植樹	10月 農地保全対策委員会 2月 農地保全対策勉強会

02 農用地ビジョンづくりワークショップ

日時	内容
第1回 2023 1/24	・農地の活用の現状 ・鳥獣被害被害など 農地の困りごとの共有 ・農地や農業の希望の共有
第2回 2023 3/13	・希望を実現に向けた課題の整理 ・具体的な活動案の検討
第3回 2023 11/22	・2023年の耕作実態を地図に書く ・12年後の耕作予想を地図に書く ・2023年の鳥獣被害を地図に書く
第4回 2024 2/16	・「守る農地」の線を引く ・「守る方法」を選ぶ ・「活用方法」を選ぶ



03 伊手農村農業ビジョン図（目標年 2030 年）の作成



5回にわたる農用地ワークショップと、農家ヒアリングや現地調査を経て、圃場の特性にあわせた活用法を定めたビジョン図を作成し、全戸に配布しました。



04 みのり大学の開校

描いたビジョンをもとに、農地活用に関する学びや実践の場として「みのり大学」を開校。定期的に講座を開き、講師を招いて新しい取り組みを学んだり、先進地視察も行いました。

その中で得た知見をもとに、伊手ではどう進めていけば良いか考え、動き出しています。



みのり大学
OSHU-IDE

第1回授業 「農地が荒れる前にできること ～ピーカンナッツの可能性～」

2024年8月23日

(株)菅野農園代表を講師に招き、ピーカンナッツ栽培の可能性について聞きました。



第2回授業 「地域まるっと中間管理方式 ～西和賀町大野集落の取組～」

2024年9月13日

(一社)大野もっこの郷事務局長を講師に招き、経緯や取組内容などを聞きました。



第3回授業 「西和賀町大野集落現地視察」

2024年11月21日

第2回で話を聞いた大野集落を実際に訪れ、拠点施設等を見学し、話を聞きました。



第4回授業 「地域まるっと中間管理方式 ～伊手で導入するために～」

2024年12月17日

「地域まるっと中間管理方式」の提唱者である可知先生を招き、伊手で導入する方法について説明を受けました。



05 ピーカンナッツの植樹



農村景観を守る取り組みとして、株式会社菅野農園がサロンドロワイヤルのピーカンナッツプロジェクトと出会い栽培を決意。伊手の耕作放棄地約100haを対象に2025年春までに計490本を植栽予定。5年後には収穫、陸前高田市のゴールデンピーカンナッツ社へ出荷し、将来的には県内全域への普及や地域特産品開発を目指します。



今後の予定…

2025年度からは、中山間直接支払のネットワーク加算を活用して、事務の受委託や草刈隊の組織化を進めていきます。また、「地域まるっと中間管理方式」の実現も目指します。

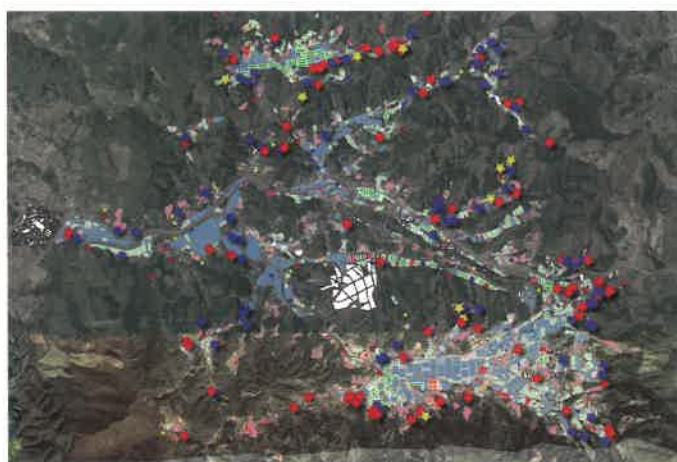
7 農村RMO事業III 鳥獣被害対策

鳥獣被害が広がってきたため、専門家を招いて鳥獣対策勉強会を開催しました。地域内外から農家、非農家に関わらず多くの参加者が集まりました。そのため、2024年からは「けもの大学」と命名して、定期的に学びと実践の場を設けました。並行して具体的な対策も着々と実施されています。



勉強会・けもの大学		具体的な対策	
2023年度	9月 第1回鳥獣被害対策勉強会	10月 現地にカメラを設置	
	2月 第2回鳥獣被害対策勉強会	11月 鳥獣目撃マップを作成	
2024年度		2月 カメラで多数の鳥獣確認	
	6月 けもの大学開校		
	8月 第2回けもの大学	10月 未利用果樹アンケートの実施	
	10月 第3回けもの大学	11月 囲い罠設置	
		11月 未利用果樹の利活用イベント開催（柿もぎ）	
	1月 第4回けもの大学	3月 電柵設置	

01 鳥獣被害マップの作成



鳥獣被害の目撃情報と被害状況を記載した鳥獣被害マップを作成し、地区センターに常時掲示しています。これをもとにどこから何を始めれば良いか検討を開始しています。鳥獣被害マップは毎年作り、生息状況の変化を知ることが大切ということで、毎年みんなで作っていきます。

- イノシシ見た
- ★ イノシシ被害
- クマ見た
- ★ クマ被害
- ニホンジカ見た
- ★ ニホンジカ被害



02 鳥獣被害対策の実施



囲い罠の設置



未利用果樹の利活用イベント

具体的な鳥獣被害対策のひとつとして、地区内にシカ用の囲い罠の設置を行いました。また、鳥獣の餌となり得る放置柿の利活用を行う収穫イベントも開催しました。



罠付近で確認されたシカ

03 けもの大学の開校

鳥獣被害の勉強会から始め、専門家を校長とした「けもの大学」を開校し、定期的に学びと実践の場を設けました。被害状況をまとめたマップの作成や、具体的な対策方法、鳥獣被害対策の検討などを続けています。

鳥獣被害対策の3本の矢

1の矢
侵入防止対策



2の矢
生息環境管理



3の矢
個体数管理



野生生物研究所ネイチャーステーション

古谷益朗氏

雑木林と野鳥をテーマに活動後、こども動物自然公園や農業技術研究センターで鳥獣害対策を担当。現在は野生生物研究所ネイチャーステーション代表。NHK「ダーウィンが来た!」などに協力。農林水産省農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー。



第1回授業 「鳥獣被害対策の最前線」

2024年6月7日

動物の習性や特徴、柵の正しい設置方法などを学び、正しい知識と技術で自ら地域を守ることの重要性を学びました。



第2回授業 「正しい侵入防止対策を知る」

2024年8月21日

動物の習性にあった侵入防止対策を学び、実際に伊手の農地で現在の対策を確認して歩きました。



第3回授業 「けものが嫌がる生息環境を学ぶ」

2024年10月24日

食害を受けた作物ごとに、被害を受けた鳥獣の種類とその被害状況をまとめた「けものの食」カレンダーを作りました。



第4回授業 「狩る・そして食べる」

2025年1月27日

鳥獣の捕獲と活用方法を学びました。シカ肉とイノシシ肉のジビエ試食や修了証書、記念品の授与も行いました。



伊手の けものの食カレンダー

第3回授業のワークショップの際、みんなで作成。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
水稲	苗づくり	田植え	苗を食べる	穂を倒す	穂を食べる	稲刈り	ひこばえ	
	田を荒らす		畦を壊す	休耕田を荒らす	稲を食べる			
ユリ・ユリ根		開花	芽を食べる					収穫
		根を掘って食べる						
サツマイモ		植え付け				収穫		
					掘って食べる			
ヤマイモ		植え付け				収穫		
長芋		種芋を掘って食べる						
大根				種まき	葉を食べる			収穫
大豆			種まき				収穫	
エダマメ				葉を食べる			食べる	
牧草	収穫		収穫			収穫		
	食べる							
スイカ		植え付け			収穫			
トウモロコシ				食べる				
				食べる				

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
タケノコ	収穫	収穫	収穫						
	食べる								
	食べる								
	食べる								
ブドウ			開花			収穫			
					葉を食べる				
リンゴ	開花					収穫	収穫	収穫	
						食べる			
						食べる			
モモ	開花				収穫				
				実を食べる					
いちじく			開花			収穫			
						葉を食べる			
柿		開花					収穫	干す	
							食べる	食べる	
クリ			開花					収穫	
								食べる	

ニホンジカ カモシカ イノシシ ハクビシン アナグマ クマ 他

伊手のおでかけを助けるための取組として3つの移動支援を行っています。地区内の移動に特化した「いで・ごー」、地区外の買い物施設への行き帰りに特化した「いで・おでかけサロン」、地区外の医療機関への行き帰りに特化した「いで・通院支援」です。

01 買物支援と通院支援（実証運行） 2024 年度

いで・おでかけサロン

みんなで岩谷堂方面のスーパー等をめぐり、買い物できる移動サービスを実証運行しました。



運行時間

- 13:00頃 伊手地区センター出発
伊手地区内を循環
- 14:00頃 岩谷堂各店舗に到着
- 15:00頃 各店舗巡回後
岩谷堂を出発
- 15:30頃 各家に到着

運行ルート



運行期間	2024年12月18日～2025年3月13日
運行日	水・木の午後 (水曜日：1・3区/4・5・9区) (木曜日：2・8区/6・7区)
行き先	岩谷堂方面の買い物施設
運行時間	13:00 頃伊手出発→14:00 頃店舗到着 15:00 頃店舗出発→15:30 頃各家到着
利用料金	1回 100 円 (ガソリン代・保険代として)
利用方法	前日 15 時までに要予約
予約先	伊手地区センター 0197-39-2121
利用者数	1月…0名、2月…7名、3月…8名

いで・通院支援

車がなく、送迎をお願いする人がいない人など、異動に困っている人が通院するための異動サービスを実証運行しました。



運行期間	2025 年 1 月 6 日～3 月 14 日
運行日	月・火・金の午前 (1人につき月1回程度/祝日を除く)
行き先	江刺地域の病院
運行時間	原則午前中に帰宅できる時間帯
利用料金	1回 100 円 (ガソリン代・保険代として)
利用方法	7 日前までに要予約 (事前の会員登録制)
予約先	伊手地区センター 0197-39-2121
登録者数	3 月までに 21 名
利用者数	1 月…5 名、2 月…16 名、3 月…17 名

利用者の声

待ち時間が
なくて助かる

タクシーがなくなって
困っていたので助かる

乗り口や車内が広くて快適

利用料金が安すぎる

病院が終わるまで
待ってもらうのは申し訳ない

02 空白地自家用有償運送（公共ライドシェア） 2022.10～

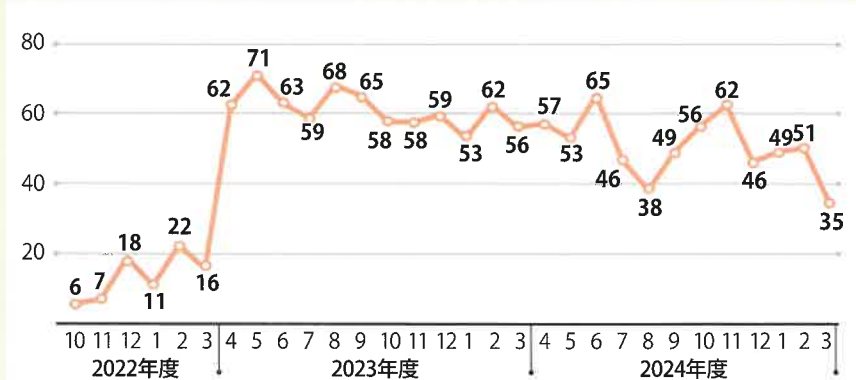
地域内交通「いで・ごー」

利用者同士で乗りあって、指定乗降場所まで乗ることができる交通サービスです。

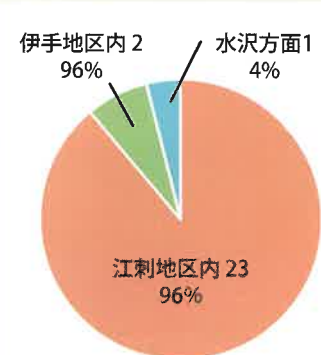


運行期間	2022年10月1日～運行中
運行日	月・火・金
行き先	自宅と地区内にある指定停留所34箇所
運行時間	行き3便 (7:50 頃、9:20 頃、12:50 頃出発) 帰り3便 (13:00 頃、15:50 頃、18:00 頃帰宅)
利用料金	1回500円
利用方法	前日15時までに要予約
予約先	伊手地区センター 0197-39-2121

地域内交通「いで・ごー」の運行実績



月別利用者数の推移



行き先の割合

伊手地区内でタクシーに変わる新しい公共ライドシェアを運行開始予定！

2025年1月に地区内で唯一営業していたタクシーが廃業しました。その代わりとなる、新しい送迎サービスを地区主体で運行する予定です。



運行形態	公共ライドシェア（交通空白地有償運送）
運行日時	月～金の8～19時
行き先	伊手地区内と地区外の指定場所
運転	事前に登録したボランティアドライバー
利用料金	タクシーの半額程度

9 情報の発信と繋がりづくり

地区の活動をまとめた情報誌「サンライズ新聞」の定期発行や、伊手の紹介動画、絵本作家による伊手絵本の作成など、様々なカタチで伊手の情報を発信しています。また、随時Instagramとフェイスブックにてリアルタイムで発信中です。伊手の活動に興味を持たれた方、伊手の住民じゃないけど一緒に活動してみたい…と思った方も、ぜひご連絡ください。

01 動画の制作

企画・制作：株式会社ロンド



伊手の現状と魅力を発信して関係人口を増やすことを目指し、ありのままの伊手を撮影し動画を作成しました。「地域の資源」と「人」というキーワードで、過疎でもにぎやかな地域を目指す想いを込めました。

02 絵本の制作

企画・制作：株式会社ロンド



同様に、伊手に来たくなる仕掛けを盛り込んだ伊手の絵本を制作しました。東京でのポップアップイベントなども開催しました。

03 サンライズ新聞の発行

2024.7～毎月発行



活動の様子や会議の内容、イベントの様子などをまとめ、月に1回全戸配布しています。

- 2024年 7月 「第1回協議会定例幹事会」等
- 8月 「ドローンとAIで変わる農業の未来」等
- 9月 「第2回サマーキャンプ2024開催」等
- 10月 「農地を守るヒント大野集落から学ぶ」等
- 11月 「奥州市長へ伊手の活動をプレゼン」等
- 12月 「伊手カレー祭 開催」等
- 2025年 1月 「視察と提唱者の研修会開催」等
- 2月 「いでおでかけサロン・いで通院支援運行中」等
- 3月 「生活支援の先進地を視察！」等

発行：伊手農村農業活性化協議会 2025年3月
〒023-1761 奥州市江刺伊手字西風54番地
0197-39-2121 ideshink@pup.waiwai-net.ne.jp

編集/制作：NPO法人いわて地域づくり支援センター

仲間募集中！



@IDESHINK2024



伊手農村農業活性化委員会